



写真は昨年
の原爆絵画展
のようす

薩摩川内市 市議会本会議

六ヶ所再処理工場の実態公表を

陳情を不採択―賛成は井上勝博議員ただ一人

川内原発の乾式貯蔵施設建設に関連し、六ヶ所再処理工場の現状を調査・公表するよう求めた陳情は、本会議で不採択となりました。日本共産党の井上勝博議員だけが賛成し、議長を除く23人全員が反対しました。

「一時保管」の前提を問う

六ヶ所再処理工場は完成延期を27回繰り返して、約245立方メートルの高レベル放射性廃液も残されています。また、川内原発で使われている「ステップ2燃料」は、従来より濃

縮度を高め、長く使用できる燃料ですが、現在の許可では六ヶ所再処理工場の処理対象外です。再処理には事業変更許可が必要とされています。

井上議員は、「搬出先

の見通しがなければ、乾式貯蔵が一時保管ではなく長期保管になる恐れがある」と指摘しました。

情報公開さえ否定

反対討論では、市に専門的な技術評価を行う権限や体制がないことなどが理由に挙げられました。

しかし陳情が求めたのは、市が安全審査を行うことではなく、六ヶ所再処理工場の現状を調査し、市民へ公表す

8月8日（土）～9日（日）SSプラザさんだいロビー（無料） 高校生が描いた原爆絵画展

被爆者の証言をもとに描かれた作品を展示

広島・長崎への原爆投下から81年。核兵器のない世界を願い、今年もSSプラザさんだいで「高校生の描いた原爆絵画展」を開催します。展示するのは、広島

市立基町高校の生徒たちが、被爆者の証言を聞き取り、当時の惨状や体験を描いた作品です。一枚一枚の絵を通して、原爆被害の実相と平和への切実な願いを伝えます。

会場には、折り鶴、感想・メッセージ、非核三原則の堅持を求める署名のコーナーを設けるほか、被爆建物「旧陸軍被服支廠」の歴史も紹介する予定です。「世界から核兵器をなくしてほしい」。その願いを地域のみならずと

こちらくらしの相談所
(No. 657)
携帯 080-3996-0237 (井上)
なんでもご相談ください。

樋脇町塔之原の里道 今後也要望に 応じて草払い

樋脇町塔之原の里道について、相

ることです。すでに明らかになっている事実を整理して知らせることまで拒むのは、市民の知る権利や議会の監

談者から「今回の除草で最後と言われたが、今後はどうなるのか」と不安の声が寄せられました。この里道について市は昨年7月、相談者と協議し、「年1～2回程度、除草作業を実施する」と回答していました。あらためて市に確認したところ、今年2月から3月にも補修班が草払いを実施し

ており、今後也要望があれば、補修班の計画に沿って作業を行うとの回答がありました。「伐採の要望件数が多いため、作業時期は補修班の都合によりですが、年1～2回程度の対応となります。除草が必要な場合は、樋脇支所産業建設グループに連絡してください。」ということになりました。相談者もホッとしていました。

視機能を軽視するものではないでしょうか。使用済燃料の行き先が不透明なまま、乾式貯蔵施設の建設だけを

進めてよいのか。日本共産党は引き続き、事実の公表と市民への説明を求めます。

市長が乾式貯蔵を説明 地域外の市民は事前確認を

薩摩川内市は「令和コミュニティーク」で、川内原発に計画されている使用済み核燃料の乾式貯蔵施設について、市長による説明を行っています。

今後は、7月28日（火）午後2時からサンアリーナさんだい、29日

（水）午後2時からセンピア、8月5日午後2時から消防局で開催されます。各会場には対象地域が定められています。地域外の市民が参加できないとの明確な案内はありません。参加申し込みは不要です。

薩摩川内市 AI データセンター立地協定を締結へ とカインシ

莫大な電力消費や環境への影響、防災対策など 多くの課題

薩摩川内市は7月18日（土）、カインシデジタルインフラストラクチャー株式会社とAIデータセンター新設に関する立地協定を締結します。協定は鹿児島県立ち会いのもとで行われ、市長、県知事、同社代表が出席する予定で、市が議会に提供した資料によると、同社は2026年1月20日に設立され、本社をサーキュラーパーク1丁目に置き、資本金

は500万円。事業内容はデータセンターの建設、所有、運営などとされています。

井上市議のコメント

AIデータセンターは地域経済への期待がある一方で、莫大な電力消費や環境への影響、防災対策など多くの課題があります。立地協定を急ぐ前に、市民が計画の全容を知り、疑問や不安を率直に議論できる場を設けるべきです。「まず協定、説

明は後」という進め方では、市民の理解と信頼は得られません。情報公開と住民参加を徹底することを求めます。

エプロンおばさんの 簡単フッキング（711）



タイ茶漬け

【材料（2～3人分）】

タイ（刺身用）150g、だし汁300ml、ご飯2杯、大葉4枚、白ごま小さじ2

作り方

- ① だし汁に塩小さじ1/3、しょうゆ小さじ2を加えて冷やす。
- ② タイをしょうゆ小さじ1、ごまであえ、大葉は千切り。
- ③ ご飯にタイと大葉をのせ、だしをかけて完成。

No. 78



シネマ太郎の映画評と案内 TOMORROW 明日（1988年）



TOMORROW 明日

戦後81年の夏。毎年、この時期になると全国的に戦争に関する映画の上映があります。鹿児島でも再上映を含めて数本が予定されています。宮崎県えびの市出身の映画監督、黒木和雄（2006年死去）は戦争中に少年時代を過ごし、後に「戦争レクイエム3部作」と呼ばれる作品など、戦時下を描いた映画を残しました。「TOMORROW 明日」は1988年公開。みている間、緊張を保持せざるを得ない作品です。なぜか？長崎に原爆が投下されたのは昭和20（昭和20）年8月9日午前11時2分。この映画はその前日、8月8日の朝から9日の原爆投下に至る庶民の生活を描いているのです。戦時下という異常な状況ではあるものの、今日が明日に続く日常生活が一瞬にして断ち切れ、死と地獄を強いられる。みている私たちは原爆投下のことを知っているの、とてもつらいです。看護婦のヤエ（南果歩）と工員の中山（佐野史郎）との結婚式が小さな家で行われます。ほんの形だけの祝いの膳。両親と兄弟、友人。狭い庭で記念撮影。家族の控えめな笑顔。ヤエの姉・ツル子（桃井かおり）は臨月。ふいに陣痛が始まり、産婆さん（賀原夏子）がやってきます。滋養になるからと母のツイ（馬淵晴子）はお手玉から取り出して煮た小豆をツル子に食べさせるのです。あまりのおいしさに喜びの声をあげ、「お母さん、もういっしょに食べよう」とツル子。ツル子の妹・昭子（仙道敦子）は、恋人の医学部生・英雄から赤紙（召集令状）が届いたと聞きます。死の恐怖におびえるあまり、昭子との逃亡を考えますが、「そいでも男ね」と昭子は突っぱねるのです。「ご時世」とか「近所の目」という言葉が何回か出てきます。人々は国に従順で、おとなしく、表立って異議は唱えず、つまり、戦争に協力していたのです。8月9日、朝。長崎の人々の生活が始まります。そして、午前11時2分。昭子がかかる上空を見上げると、小さく光る銀色の飛行物体が目にとまります…。上映の機会があれば、ぜひ。配信でみることもできます。次回も戦争に関する映画を取り上げたいと思っています。

明は後」という進め方では、市民の理解と信頼は得られません。情報公開と住民参加を徹底することを求めます。

底することを求めます。

底することを求めます。

中俣先生の つれづれなるままに（841）



←中俣先生のブログはこちら

夏が普通の顔してやってきた。もう少しおらしく「夏ですよ」と、耳元でささやきながらやってくればいいのに。まあ、自然現象だから仕方ないか。それにしても春は、春らしい気分を味わうことなく、あっけなく去って逝った。なかでも五月はひどかった。四月下旬の、NHKの取材にかき回されているうちに、ポロツと、歯に被せていた銀が取れ、それはいいとして、その銀まで行方しれずとなつて、おかげで六月まで歯医者に通った。世間は、やれハワイだの、帰省だのと騒いでいるのに。おまけに、メタボ検診の結果が届いて、血尿がプラス。泌尿器科に行かれて再検査された方がいいでしょうと、係りつけのお医者さん。こちらの方は、血液検査、腎臓のエコーと、二日で無罪放免。あけくの果ては、緑内障の薬が切れて眼科へ。世の人びとは、観光に、豪華な食事にと、お金を使っているのに、こちらは医療に莫大な、といっても数万円だが遣つて、くたびれ果ててしまった。今でも俺に春はあったかなあと、ポーと考へ込んでいる。春と秋が縮んで、夏と冬が大きな顔をするようになったと気象庁は騒いでいるが、そのせいもある。これには、老いの身には堪えるのだ。冬は冬で風邪を引くし、夏は夏で熱中症。昔みたいに、春と秋でのおんびりと命の洗濯とはいかなくなった。これとて、マルクス言う、資本主義の危機なのであろう、次に訪れるであろう、豊かな自由の国を準備している傷みなのである。そう考えると少しは納得、我慢できる。（詩愛好家）